

課題

- 自己開示しながらコミュニケーションを図ろうとする態度
- 音声と文字を一致させ、語句を書く力

具体的な取組と工夫

- CAN-DOリストを作成し、指導と評価の一体化を図る。
- パフォーマンステストを実施 (Speaking, Writing) し、その評価にルーブリック評価を用いる。
- 英語科だけではなく、学年・学校全体で協力してこの事業に取り組む。
- 授業公開を行い、外部有識者より指導助言をいただくことで、自校の課題解決について学びを深める。



11月16日(火)小中英語パートナーシップ事業及び英語指導力向上事業授業公開の様子

成果

- 3学年では、全単元において、単元毎の学習計画表を兼ねたCAN-DOリストを作成し、指導と評価の一体化を図ってきた。新型コロナウイルス感染症に伴う休校や様々な変更がある中でも、生徒たちはCAN-DOリストを活用した主体的な学習を行い、自律した学習者へと成長を遂げる様子も見られた。年度末のアンケートによると、CAN-DOリストが主体的な学びにつながったと感じている生徒が8割を超えた。
- パフォーマンステストにおいては、ルーブリックを用いた評価基準を明示することで、生徒たちがより良い発表をしようと心がける様子が見られた。また、その内容には、生徒自身に関する多くの内容が多くみられるようになった。一方、感染リスクの問題で、対面での確認ができないときにも、GIGA端末を用いて録画し、その学びの足跡を蓄積してきた。

課題及び改善案

- 来年度は、今年度の実践を踏まえ、実践内容および成果や課題について校内全体で共有し、英語科だけでなく学校全体として指導と評価の一体化についてさらに取り組んでいきたい。
- 生徒が、英語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせることができるような場面設定の工夫にも力を入れていきたい。